

図書館へいこう!

話題の新着本

『憐憫』 島本 理生 / 著

かつて子役だった沙良は、芸能界で伸び悩んでいた。自分の正体をまったく知らない人間に出会いたい。そんな折に酒場で偶然出会った柏木という男に、たまらない愛しさと憐憫を感じた。



『サブスクの子と呼ばれて』

山田 悠介 / 著

人材サブスクサービスが普及した日本。児童養護施設で暮らす怜と灰花は、違法な仕事を繰り返しながら、身を寄せ合って生きていた。ところが、高1の秋に狂気と悲劇が訪れ…。



『絶筆』 石原 慎太郎 / 著

2022年2月1日に死去した石原慎太郎のラスト作品集。限りなくピュアな初恋の記憶を描いた「遠い夢」、死後公開された「死への道程」など、単行本未収録の全6作品を収録する。



『清浄島』 河崎 秋子 / 著

昭和29年初夏。動物学者・土橋は礼文島に赴任する。島の出身者から相次いで発見された「エキノコックス症」を解明するためだった。島民を苛む病を撲滅すべく、土橋は奮闘を続けるが…。



『闇の聖域』 佐々木 譲 / 著

警視庁を退職して満洲・大連警察署特務巡査となった河村修平は猟奇殺人を追うことに。一方、新進画家の中村小夜は街で偶然出会った青年ルカへの想いを深めてゆぐが…。圧巻のサスペンス×ロマンス長篇。



『葉と嘘の季節』 米澤 穂信 / 著

高校で図書委員をつとめる次郎と詩門は、ある日、図書室の返却本の中に、押し花の葉を見つける。その花は猛毒のトリカブトだった…。



『光のところにいてね』

一穂 ミチ / 著

古びた団地の片隅で出会った結珠と果遠。ふたりは何もかもが違った。着るものも食べる物も住む世界も。運命に導かれ、運命に引き裂かれるひとつの愛に惑う二人の、四半世紀の物語。



『特殊清掃人』 中山 七里 / 著

誰もいない部屋にこそ、嘘のない生きどまが現れる。特殊清掃業者に日々、押し寄せる様々な依頼。彼らの仕事をとおして、孤独死した人々が抱えていた事情が浮かび上がる。



今月のBEST本 (10月の貸出回数上位本)

『祈りのカルテ』

知念 実希人 / 著

内科、外科、小児科、救急科…。初期臨床研修で様々な科を回っている新米医師の諏訪野良太は、患者たちが抱える問題に耳を傾け、解決の糸口を懸命に探し…。連作医療ミステリ。10月からドラマ放映中。



『ミステリと言う勿れ 1～10』

田村 由美 / 著

卓越した洞察力を持つ大学生久能整が事件を解決していく新感覚ストーリー。テレビドラマ化された人気コミックで図書館では10巻まで所蔵しています。

